

第2回 青森市除排雪検討会議 会議概要

開催日時・場所	令和7年7月17日（木）13:00～14:30 青森市役所 本庁舎2階 庁議室
出席者	【委員】 大坂憲一委員、櫛引素夫委員、成田幾末委員、田嶋研逸委員 【青森市】 市長 西秀記、副市長 赤坂 寛、副市長 横山 英大 都市整備部長 中井 諒介、都市整備部理事 土岐 政温 都市整備部次長 櫻田 文明 道路維持課長 葛原 積範、雪対策室長 福永 宏治
次 第	1 開会 2 案件 ・青森市除排雪検討会議について ・除排雪実施体制他都市比較 ・持続可能な除排雪体制の構築に向けた取組の方向性 3 閉会

【資料説明】

- ・田嶋委員から資料1について説明。
- ・大坂委員から資料2について説明。
- ・成田委員から資料3について説明。
- ・事務局から資料4について説明。

【各委員及び事務局説明に対する委員意見】

委員	雪質についてですが、近年は重たい湿雪が多くなってきている印象があります。こうした雪は、除排雪作業にも影響を与える可能性があり、また屋根の雪下ろしも一層重要になると感じています。 高齢化が進む中で、屋根の雪下ろしが困難な世帯も増えていることから、除排雪においてもこの点を考慮すべきだと考えます。
座長	雪水比は簡易的にアメダスの 1 時間ごとのデータなどから算出できるのでしょうか。
委員	雪水比の算出にはアメダスの毎時間データを使用しています。 降雪量と不溶解した降水量を元にデータを整理し、積算することで求めています。 なお、降雪がなかった時間帯については集計対象外としています。
座長	今まで経験的に「湿った雪」と捉えていたものが、数値化されることで対策も立てやすくなるかもしれませんね。
委員	雪の密度を直接測定することが理想ですが、常時実施するのは難しいため、簡易的な方法で目安が得られることには意味があると思います。
委員	除雪業者のオペレーター数が年々減少しており、以前は主に建設業の方々が担っていたのですが、現在では造園業など他業種からの参入もあり、約 25%が建設業以外となっています。 オペレーターにはやはり経験が必要ですので、その確保が課題であると感じています。 本日ご提示いただいた 33 ページの資料にあるとおり、青森市の除排雪作業延長は、他市と比較しても非常に長く、例えて言えば、青森から広島の尾道に至る距離と同等です。 長岡市と比較しても、距離的には近いものの、除排雪予算は青森市が格段に高く、今年度は特に 74 億円と、通常の倍近い規模となっています。この差異については、今後精査が必要です。 除雪方式や地域性、地盤沈下の有無、さらには降雪時の時間帯なども考慮する必要があります。例えば、日中の降雪が多い年には対応が難しくなりますし、雪質の変化（湿雪化）なども要因の一つです。 また、24 ページにあるように、路上駐車や私有地からの雪の持ち出しといった行為が除排雪費用を押し上げている現状もあります。 今回の会議を通じて、まずはこうしたデータを市民の皆様を知っていただき、理解を深めていただくことが第一歩だと考えています。 除排雪における課題は、単年度で解決できるものではなく、雪の質や量、降雪の傾向が変化している今、柔軟に対応できる体制づくりが必要です。
座長	大前提として、前提のある正確なデータをしっかりと押さえることが重要です。

	また、これまで経験的に「こんな雪だった」と言われてきたことが、気象データから特異な降り方だったと証明できれば、感情ではなく理性的な対応が可能になります。 情報発信についても見直す余地があると考えています。たとえば、市のホームページで案内されている「よくあるご質問」などの情報提供が、市民にとって本当にわかりやすいのか、改善の余地があるのではないかと感じております。 また、関係機関との会議においても、得られた知見や議論の内容を市民に共有できれば、より理解が深まり、施策への共感も得やすくなるのではないかと思います。
委員	資料４の４４ページに「市民みんなで力を合わせて雪と向き合う」というフレーズがあります。これは非常に理想的な考えですが、現実的には限界もあると感じています。 たとえば、私の町会では、雪かきをしたあとに自宅敷地内の雪をどう処理するか、悩むことが多々あります。 そんなとき、向かいの方がご自宅にある融雪機に雪を運んで溶かしてくださったり、日中働いていて雪かきができないお宅の前を、在宅の方が代わりに片付けてくださることがあります。 こうした支え合いは本当にありがたいのですが、実はそのほとんどが後期高齢者の皆さんです。 このような協力関係は、雪対策の時だけでなく、日頃からの良好な隣人関係があってこそ成立するものです。 また、ボランティア活動の推進についても、教育委員会が非常に力を入れてくださっていて、たとえば佃中学校の事例では、生徒が地域の雪かきを手伝おうとした際にスコップが足りず、学校側と地域で調整し、資材を提供して対応することができました。 こうした活動を通じて、子どもたちがボランティア精神を学び、将来に向けて雪と向き合う意識を育てることは、非常に重要だと考えています。
座長	非常に貴重なご意見だと感じました。 たとえば、ボランティア活動には、できることとできないことの線引きが必要だと思います。どのあたりにニーズがあるのか、また、活動実績のデータ、すなわち「何人が何回出動したのか」「何世帯が対象となったのか」といった数値で把握できる部分については、積極的に可視化すべきではないでしょうか。 そういった定量的な裏付けがあることで、「なるほど、これは可能だ」「ここは改善が必要だ」と具体的な議論につながると思います。逆に、そういったデータを持たずに議論を進めると、どこから手を付けるべきかが見えづらくなってしまいう懸念があります。

	もちろん、人間関係のように数値化が難しい側面もありますが、それでも何らかの形で情報として共有し、たとえば「支え合いが活発な地域」と「そうでない地域」といった違いが見えてくると、行政としてもどのエリアに支援を厚くすべきか、地図上で可視化できるのではないのでしょうか。 また、ボランティアをどう頼めばいいのかすら分からない方も一定数いらっしゃると思います。そうした市民の立場を踏まえて、ボランティアとの関係性をいくつかのステージに分類し、たとえば「すべて満たされた状態」を第５ステージ、「何も分からない段階」を第０ステージとしてマッピングするなど、情報の整理と集積を進めることが、次の議論への橋渡しになると考えております。 現在のような曖昧な状態では、施策の方向性も不明瞭になりがちです。したがって、こうした市民の声を踏まえ、市役所としてデータの体系化と整備を進める必要があるのではないかと感じました。 さらに、今日ご欠席ではありましたが、町会連合会の皆さまが毎年開催している除排雪調整会議についても触れておきたいと思います。私自身、この会議が継続して行われていることは以前から存じておりましたが、第１回目の本会議でもこの話題を取り上げたかったところです。 今回は具体的な内容までは出てきませんでした。町会連合会ではかなり突っ込んだ実務的な議論がなされていると伺っております。そうした内容については、ぜひ市民全体に共有いただきたいですし、除排雪に関係する業者やこの場にいらっしゃらない関係機関の皆様にも情報提供されると良いのではないかと考えております。 そうした情報共有が、今後の除排雪政策の検討にとって有益であると確信しています。 また、次回（第３回）の会合が本検討会の最終回となる予定ですが、現時点でどのような形でアウトプットすべきかについて、ご意見や方向性があれば事務局からお聞かせいただけますか。
事務局	取りまとめの方向性についてお答えいたします。 本日までの議論や、座長からも「膨大な情報が集まっている」とご指摘いただきました内容を、改めて整理し、差し替えが必要な部分を修正したうえで、会議としての取りまとめを行いたいと考えております。 なお、これまでどおり、委員の皆様からはメール等を通じて追加のご意見を頂戴できれば幸いです。
座長	提言という形になるかどうかは未定ですが、何らかの形で、委員の皆様の知見やご意見を活かしたアウトプットにつなげられればと考えております。その内容や表現方法については、今後改めてご意見を伺うことになるかと思っておりますので、あらかじめご了承ください。
市長	本日は長時間にわたり、委員の皆様にご協力いただき、誠にありがとうございます。

	ございました。 また、田島委員、大坂委員、成田委員には、それぞれのご専門の立場から資料の取りまとめとご説明をいただき、感謝申し上げます。 市としても、今回ご提示いただいた内容と同様の受け止めをしており、データに基づき温暖化の傾向や雪質の変化、特に湿った重い雪が増加している傾向を確認しております。 この現実を踏まえ、除排雪体制の見直しを進めていきたいと考えております。 ただし、劇的な技術革新で雪が一瞬にして消えるといったことは現実的ではありません。 今後も機械除雪を主軸とし、必要に応じて融雪溝を活用するという基本方針は継続することになるでしょう。 青森市は今後も豪雪都市であるという現実を前提としつつ、地域とのつながりやICTの活用などを通じて、常に情報とコミュニケーションが取れる体制の構築が重要だと考えております。 情報の共有と発信に力を入れ、市民の皆様にご理解いただけるよう、今後も努力してまいります。 次回の会議が最終回となりますが、引き続き皆様のご意見をいただきながら、最終的な取りまとめに向けて進めてまいります。 本日は誠にありがとうございました。
座長	データに基づくコミュニケーションは、最も基本かつ最強の手段であると改めて感じました。これにて第2回の検討会を終了いたします。